

図書館フォーラムご報告～新たな図書館の可能性を探る～

図書館が地域社会でどのような役割を果たすことができるのかについて考える図書館政策フォーラム「図書館はどう使えるか～明日の生きる力と図書館」を県立図書館で2012年12月15日(土)に開催しました。県内外の図書館関係者の方、一般県民の方ら約120名の方の参加がありました。

宮崎県は厚生労働省の人口動態統計によると平成23年度の自殺死亡率は残念ながら全国4位でした。自殺の原因には過労、負債、職場の人間関係、健康問題など様々な原因が重なって起こることが多いと言われています。課題解決型図書館としてどうお役に立てるのか今回は様々な個人や地域の課題がからむ宮崎の自殺問題に焦点をあてました。

◇ 基調講演「生きる力を育む図書館」

慶應義塾大学文学部教授の糸賀雅児先生に「生きる力を育む図書館」と題した基調講演で、生きる力という観点から全国各地の図書館の取り組みなどをご紹介いただきました。

◇ トークセッション「生きる力を図書館で」

県内で自殺防止等に取り組むNPO法人の代表や河野俊嗣宮崎県知事など、パネリスト5人でトークセッションを行いました。パネリストの方々からは図書館に期待する様々なご意見をいただきましたがその一部をご紹介します。

NPO法人宮崎もやいの会代表理事 小林順一さん

「うつとか精神疾患についての情報を本やパンフレットなどを通じ一般の人たちがより多く目にする場としては図書館は非常に有効な場所ではないか。」「これからはもっと、人と人が出会える場として公共図書館に発展してほしい。」

NPO法人国際ビフレンダーズ宮崎自殺防止センター所長 工藤智徳さん

「自死遺族の方、親しい方を亡くされた方は自殺のリスクが高くなる。そういう方のために自死遺族のつらいを行っている。この集いを図書館で行えば、他の人に紛れて入りやすいし、他の遺族の方の書いた手記を読んだりもできるのでは。」「図書館がどんなことを今したいですか、と聞くということも大事かなと思う。」

木城えほんの郷事務局長 森一代さん

「本を通じて子ども達は想像力を育むことができる。子ども達にとって一番身近な学校図書館の司書の人材育成を行ってほしい。」「休み時間に学校図書館に行って、調べ方を教えてもらったり、そういう習慣を子どもの頃に身に付けていけば、大人になって本当に困ったときに、図書館にいけばいいということに気づく大人になっていくんだろうと思う。」

よこやま司法行政事務所 横山茂さん

「(県立図書館で)健康相談があるって知らなかった。もっと図書館は能動的に発信していただけるといいのではないか。」「図書館というのは、なぜか来ただけでほっとしますので、その中でいろんな情報をいただける、共有していく。そういう図書館であってほしい。」

宮崎県知事 河野俊嗣さん

「いろいろな力を結集して、ネットワークをつくっていくこと。これが自殺対策のみならず、様々な課題でも今後非常に重要になってくると思いますし、そのネットワークを広げていく一つの拠点が図書館ではないか。」



☆ 基調講演で糸賀先生が紹介した本

『人生で大切なことは、すべて「書店」で買える』
(千田琢哉/著 日本実業出版社 2011年)

☆ トークセッションで森一代さんが紹介した絵本

『あさになったのでまどをあけますよ』
(荒井良二/著 偕成社 2011年)